

NEC

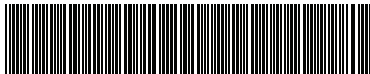
Startup Guide

N8151-125 内蔵 RDX

スタートアップガイド

はじめにお読みください

箱を開けてから本製品が使えるようになるまでの手順を説明します。
このスタートアップガイドにしたがって作業してください。



856-857736-001-B2017 年 12 月 第 2 版

本書は大切に保管してください。

使用上のご注意

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。







安全にかかわる表示について

本書にはどこが危険か、どのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。
また、製品内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが張り付けられています。
本書および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。
それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。





 **警告** 人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。

 **注意** 火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の 3 種類の記号を使って表しています。
それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。





	注意の喚起	この記号は、危険が発生するおそれがあることを表します。 記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(感電注意)	
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。 記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(分解禁止)	
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。 記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。 危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(プラグを抜け)	

(本書での表示例)

注意を促す記号	危険に対する注意の内容	危険の程度を表す用語
		 注意
	電源が ON のまま取り付け・取り外しをしない 本体装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードを AC コンセントから抜いてください。電源コードが AC コンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。	

本書および警告レベルで使用する記号とその内容


注意の喚起			
	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指などがはさまれるおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。
	高温による損害を負うおそれがあることを示します。		

行為の禁止			
	特定しない一般的な禁止を示します。		本製品を分解・修理・改造しないでください。 感電や火災のおそれがあります。
	指定された場所には触らないでください。 感電や火傷などの障害のおそれがあります。		ぬれた手で触らないでください。 感電するおそれがあります。


行為の強制			
	本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。 火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。 説明に従った操作をしてください。

安全上のご注意


一般的な注意事項




人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない
本製品は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御を目的とした使用は意図されておりません。
これらの設備や機器、制御システムなどに本製品を使用した結果、人身事故、財産被害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。



煙や異臭、異音が生じたまま使用しない
万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに本体装置の電源を OFF にして電源プラグを AC コンセントから抜き、本製品の DC ケーブルを抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。




針金や金属片を差し込まない
通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。




製品内に水などの液体、ビンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐに本体装置の電源を OFF にして電源プラグを AC コンセントから抜き、本製品の DC ケーブルを抜いてください。分解しないで買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。


設置・移動・保管・接続に関する注意事項



通気孔をふさがない
本製品の前面にある通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。




電源プラグを抜かずインターフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
インターフェースケーブルの取り付け／取り外しは本体装置の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源を OFF にしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートによる火災を引き起こすことがあります。




指定以外のインターフェースケーブルを使用しない
インターフェースケーブルは、NEC が指定するものを使用し、接続する製品やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を引き起こすことがあります。
また、インターフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。
- 破損したケーブルコネクタを使用しない。




腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない
腐食性ガス(二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど)の存在する環境に設置し、使用しないでください。
また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分(塩化ナトリウムや硫黄など)や導電性の金属などが含まれている環境へも配置しないでください。装置内部のプリント基板が腐食し、故障および発煙・発火の原因となるおそれがあります。
もし、ご使用の環境で上記の疑いがある場合には、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご相談ください。




高温注意
本体装置の電源を OFF にした直後は、内蔵型のハードディスクドライブなどをはじめ装置内の部品が高温になっています。十分に冷めたことを確認してから取り付け／取り外しを行ってください。


運用中の注意事項



カートリッジ挿入口に手を入れない
カートリッジ挿入口に手を入れないでください。
手を挟まれたり、巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。




雷がなったら触らない
雷が鳴りしたら、ケーブル類も含めて本製品には触れないでください。
また、機器の接続や取り外しも行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。




ペットを近づけない
本製品にペットなどの生き物を近づけないでください。
排泄物や体毛が製品内部に入ると火災や感電の原因となります。


電源・電源コードに関する注意事項




ぬれた手で電源プラグに触らない
ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電をするおそれがあります。




電源が ON のまま取り付け・取り外しをしない
本体装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源プラグを AC コンセントから抜いてください。電源プラグが AC コンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電したりショートによる火災を引き起こすおそれがあります。




中途半端に差し込まない
DC ケーブルはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。



指定以外の接続をしない
DC ケーブルの接続や配線は本書の説明に従って正しく行ってください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。




破損したケーブルを使用しない
ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。




指定以外のケーブルを使用しない
本体装置と接続するケーブルは弊社指定のものを使用し、接続先をよく確認してください。指定以外のケーブルを使用したり、指示とは異なる接続のまま使用したりすると火災を引き起こすおそれがあります。


お手入れに関する注意事項



自分で分解・修理・改造はしない
本製品の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。



電源プラグを差し込んだまま取り扱わない
お手入れは、本体装置の電源を OFF にして、電源プラグを AC コンセントから抜き、本製品の DC ケーブルを抜いてください。たとえ電源を OFF にしても、電源プラグを接続したまま製品内の部品に触ると感電したりショートによる火災を引き起こすおそれがあります。



中途半端に取り付けない
DC ケーブルやインターフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。

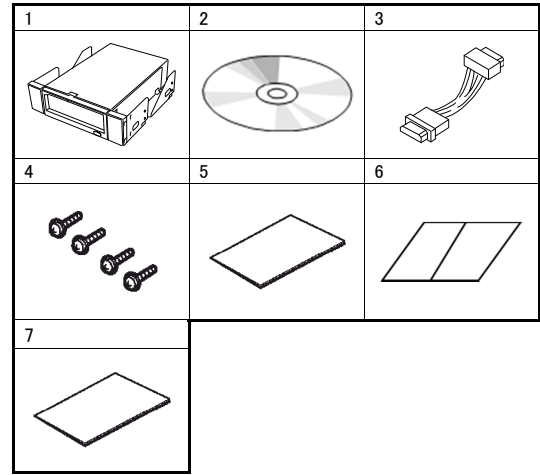
カートリッジは消耗品です。カートリッジに対する保守作業は実施できませんのであらかじめご了承ください。
カートリッジに関するお問い合わせは、販売店または下記「ファーストコンタクトセンター」へご連絡ください。

日本電気株式会社 ファーストコンタクトセンター
Tel. 03-3455-5800(代表)
月曜日～金曜日(祝祭日は除く)
受付時間 9:00～12:00、13:00～17:00

本製品の詳しい取り扱いについては、添付の CD 内のユーザーズガイドに記載されています。
本製品を使用前に必ずユーザーズガイドもお読みください。

1. 添付品を確認する

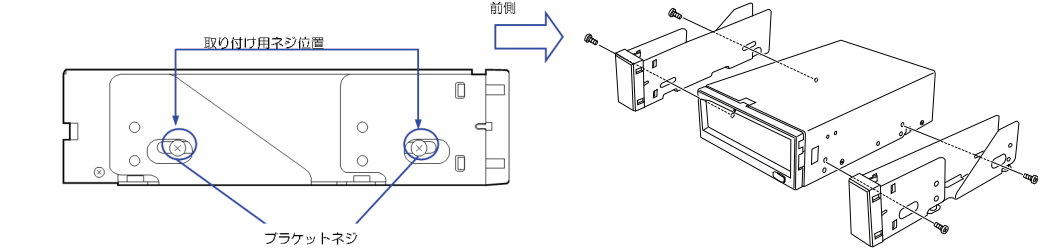
梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。



	品名	個数
1	N8151-125 内蔵 RDX	1
2	CD(ユーザーズガイド、RDX Utility)	1
3	DC ケーブル	1
4	ネジ	4
5	スタートアップガイド(本書)	1
6	保証書	1
7	内蔵 RDX 注意シート	1

2. 3.5 インチデバイスへの変更方法

本製品を 3.5 インチデバイスで使用するときは、左右のブラケットを取り外します。
ブラケットの取り外しはプラスドライバーを使ってブラケットネジを取り外すと、ブラケットが外れます。



重要 取り外したブラケットとネジは、大切に保管しておいてください。このネジは、ブラケットを取り付けるときのみに使用します。このネジはミリネジ(長さ 5.0 mm)です。このネジより長いものを使用すると製品の故障の原因となります。

<重要> 本製品の使用にあたって (その 1)

・OS のインストール時などで本製品が有効なために処理が失敗する場合は、本製品を「休止モード」に設定してください。

休止モードの設定方法

1. システムの電源を落としてください。
2. 本製品のイジェクトボタンを押したままの状態、サーバーの電源を ON し約 3 秒間イジェクトボタンを押し続けることにより休止モードとなります。休止モード状態では、本製品の電源 LED がアンバーに点滅します。

休止モードの解除方法

解除方法は休止モードの設定と同じ手順です。同じ手順で「設定⇄解除」を繰り返します。

重要 ・休止モードに設定してから OS をインストールした後は、必ず休止モードを解除してください。
・出荷時の設定は「休止モード」になっていません。

・EXPRESSBUILDER の「TOOL MENU」から各種ツール(Maintenance Utility など)を起動する場合は、本体装置起動前に RDX のカートリッジを取り出しておいてください。また「TOOL MENU」の「BIOS/FW Updating」、「ROM-DOS Startup FD」から作成した FD を使用する場合も、本体装置起動前に RDX のカートリッジを取り出しておいてください。

・バックアップにあたっての注意事項をユーザーズガイドに記載しておりますので、ご使用前にこちらも参照ください。

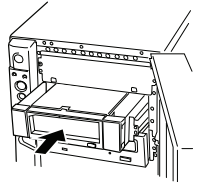
3. 本体装置への取り付け

本体装置機器等への設置方法例を以下に示します。

- (1) 本製品を取り付ける前に、取り付ける装置の電源を OFF にして、電源コードと背面に接続しているすべてのインターフェースケーブルを取り外してください。

重要 ・本体装置によってはレールを使用するものもあります。
使用の有無や設置方法については、本体装置の取扱説明書も参照してください。

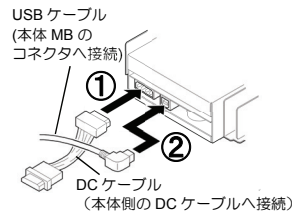
- (2) 右図の様に内蔵 RDX ドライブを取り付けます。
(3) 本体装置のマザーボード上の USB コネクタに INT.USB インターフェースケーブルの 10Pin コネクタを接続してください。USB コネクタの位置は、本体装置によって 異なりますので、本体装置のユーザーズガイドを参照してください。



・本製品にレールを取り付ける場合は、Fig.1, Fig.2 に示すネジ穴を使用してください。(Fig.1:レール取付前 Fig.2:レール取付後)
・反対側も同様に、片側 2 箇所、計 4 箇所をネジ止めしてください。レールが、本製品のフロントベゼル部のモールド部までくる場合がありますが、問題ありません。本製品のフロントベゼル面と、本体標準装備の DVD ドライブなどとのフロントベゼルの位置が一致するように、レールの取り付け位置を調節してください(Fig. 3)。(レールの形状は本体装置により異なります。)
本体装置によっては、位置が一致しないものもありますが、問題ありません
・本体装置によってはカートリッジ排出時にカートリッジ背面が本体装置のフロントカバーに接触することがあります。接触を避けるために、レールの取り付け位置を変えるか、ブラケットの長穴を利用して、本製品を奥にずらして実装してください。
・Express5800/140Rf に実装する場合は、本製品がデバイスベイから 3mm 程度前方にずれるようにレールの取り付けを調整してください。
・5.25 インチデバイスタイプ、3.5 インチデバイスタイプのどちらの場合も使用するネジは同じです。
・本製品に添付されているネジを使って固定してください。本製品に添付のネジは、ミリネジ(長さ 3.0 mm)です。添付のネジより長いものを使用すると製品の故障の原因となります。ただし、本体装置側で指定されたネジがある場合は、本体指定のネジを使用してください。またその他本体装置でも添付ネジ使用等の注意書きがある場合がありますので、本体装置のユーザーズガイドも必ず参照してください。

Fig. 1: 前側 (Front view) showing the rail installation points on the bezel.
Fig. 2: 前側 (Front view) showing the rail installed.
Fig. 3: 前側 (Front view) showing the rail adjusted to fit the bezel.

- (4) 右図のように装置に本製品添付の DC ケーブルと指定された USB ケーブルを接続してください。
USB ケーブルについては本体装置のユーザーズガイド等を確認してください。
指定された USB ケーブルによっては、USB FDD 用のケーブルと二股になっている場合があります。FDD も実装している場合は、このケーブルを FDD に接続してください。FDD を実装していない場合には、ケーブルは束ねて本体装置内の空いているスペースにしまってください。
接続する順番は DC ケーブル → USB ケーブルになります。
(5) ケーブル接続後、ファンや他の機器に干渉しないよう束ねてください。
(6) 本体装置にカバーを取り付けて、電源コードをコンセントに接続する。
(7) 本体装置の電源を ON にする。



重要 ・ファンや他の機器に干渉しないよう、ケーブリングをおこなってください。

<重要> 本製品の使用にあたって (その 2)

- ・本製品はリムーバブルハードディスク装置です。データのバックアップ用としてご使用ください。
- ・Windows 上で本製品は、リムーバブルディスクとして表示されます。また、デバイス名は「TANDBERG RDX」と表示されます。Linux 上で本製品は「Vendor: TANDBERG Model: RDX」と認識されます。
- ・カートリッジは消耗品です。エラーが発生したカートリッジは使い続けず、新しいカートリッジに交換してください。
- ・カートリッジに衝撃が加わった場合には、早めにカートリッジ内のデータを保存して、カートリッジを新しいものと交換してください。
- ・本製品には弊社指定のカートリッジをご使用ください。
- ・カートリッジを長期間使用しない場合でも、3 ヶ月に 1 度くらいの目安で定期的読み出し確認を行うことをお勧めします。
- ・カートリッジは消耗品です。カートリッジに対する保守作業は実施できませんのであらかじめご了承ください。
- ・カートリッジに関するお問い合わせは、販売店または「ファーストコンタクトセンター」へご連絡ください。